



N.Y.MADで開催した紙展
-Paper Under The Knife-より



N.Y.近代美術館内(MOMA)
デザイン展示



N.Y. MUSEUM of
ARTS & DESIGN (MAD)建物

● Madeleine Vionnetのプリーツ展（パリ装飾美術館）

Puriste de la mode と題してパリの装飾美術館で2009年6月から2010年1月31日まで開催されたマドレーヌ・ビオネのプリーツのファッションの仕事の大展望できた展覧会です。

21世紀初頭既に、これだけの仕事をしているのですからその発想と指先は魔術師とも例えたい思いでした。現在の多くのファッションデザイナー達が彼女から学び、多くの影響を受けたことは間違いないと思いますが単に過去の遺産として語られるだけでなく、その中に多くの示唆が含まれているような気がしました。

● インターカラー（国際流行色委員会）2009 —日本で初開催—

世界の流行色・トレンドカラーの基調を決める国際組織インターカラー委員会は、1963年設立され活動を続けてきましたがミラノでのミーティングを経て2009年初めて日本で委員会が開催されました。日本流行色協会（代表山内誠氏—TDA理事）が受手となり議長大関徹+大澤かほる両氏の活発、ユニークな企画と委員長ピニャーミ氏の歯切れのよい意見、色彩に対する各委員の独自の見解分析など、なかなか触れることの出来ない生の声を直接聞け、舞台裏の経過を見る思いで大変勉強になりました。シンポジウムの後の委員会で協議決定した新しいトレンドカラーはそれぞれの国に持ち帰られ明日のファッション界の指針となってビジネスの中に展開されることでしょう。

● パリコレクションで発表したイッセイミヤケのプリント“NEWS MIX”

ファッション界でプリント柄は売れにくいと評される現在ですが、プリント柄に焦点を当てた三宅一生氏のパリコレクションを背負って制作にあたった藤原氏は世界中から集めた東西古今のパターンから彼なりの感性とアレンジで見事な色、柄を布地になびかせて服を創り上げました。それをまとったモデルのしなやかな布さばきに誘われて会場にひらめく色彩の渦は、人々をハッピーにさせたと思います。ファッションがトレンドに媚びる時代は去りつつあり、美しいもの豊かなものへの感動、共鳴が受け入れられる時代になってきたように思います。



パリコレ・イッセイミヤケ
“NEWS MIX”



TOKYO FIBER '09—SENSEWARE
六本木21_21 会場